

石の上にも10年

高知大学医学部外科学講座外科1

花崎 和弘

Kazuhiro HANAZAKI



日本には「石の上にも3年」という古い諺がある。辞書には「冷たい石の上でも3年も座りつづけていれば暖まってくる。がまん強く辛抱すれば必ず成功することのたとえ」とある。

15年以上前の昔話を紹介したい。当時米国のバイラー医科大学の永代教授だった能勢之彦先生(故人)から「一度始めた研究はとにかく10年間は頑張ってみなさい。それでも駄目だったらその時は諦めなさい。大抵の研究は10年間頑張れば何らかの成果は得られるはずだから」と教えていただいた。「石の上にも3年」ではなく、「石の上にも10年」なんだと勝手に解釈した。その頃から始めた人工臓器研究はいつの間にか10年を超えてしまい、今は延長戦に突入している。

日本人工臓器学会(JSAO)の理事になって1期目の2年間で終了した。私のできることは限られており、主として人工臓器関連の教育活動や啓蒙活動を介して、学会の活性化に取り組んでいる。

JSAOの会員数は平成5年の4,205名をピークに以後減少し、平成22年には2,678名まで落ち込んだ。しかし、富永前理事長、松田理事長らのご努力により、平成23年以降再び増加に転じ、平成27年は3,243名(平成27年9月30日)まで復活した。その内訳を分析すると医師、臨床工学技士(ME)、看護師らの医療関係者は増加傾向にあるが、工学者や企業関係者の新入会員数が減少している。会員数増加のためには従来から対象にしている医師や工学者、近年増加が著しいME、まだまだ伸び代が期待される看護師、実験助手だけでなく、近年減少が目立つ企業会員もターゲットにした入会勧誘活動が必要である。特に企業の方たちには施設会員という新しい枠を設けて入会していただく方策もある。同時にJSAOがそうした対象者にとってより魅力的な学会に

変化していくことも求められる。具体的には学会員になると支払う金額以上のコストパフォーマンスが得られることを実感していただけることが何よりも大事である。幸いJSAOは、英文誌、和文誌、グラントなど様々なアワードを有しており、特に若い会員にとって魅力的な学会としての基盤は既に構築されている。

学会に課せられた最大のミッションは「次世代を担う学会員を育成する」教育活動だと思う。ただし、教育は莫大な時間がかかるだけでなく、ある程度の資金も必要となる。例えば、私の専門領域である消化器外科医を一人前にするには最低10年は必要である。現在は内視鏡外科手術やロボット手術もあり、どんなに効率的な教育プログラムを実行しても手術手技を覚えるだけで相当な年数を要する。更に自ら研究して英語論文文化ができる研究マインドを持った外科医(academic surgeon)の育成となると気が遠くなるような歳月が必要となる。

人工臓器研究を育ててくれたJSAOにはいつも感謝している。本学会が継続して「次世代を担う会員の育成」というミッションに取り組み、会員の学術的活動を支援し、それが個々人のキャリアアップ(資格取得や昇進)に直結すれば、有り難い学会として認知され、入会者は増加するであろう。会員数増加の方策も短期間で成果が出ないからといって途中であきらめてはいけない。まさに“Perseverance will lead to success”である。

何かを成し遂げようと思った時、一人の方が早く行ける。しかし、もっと遠くに行くには、気の合う仲間が必要だと思う。大切なことは「石の上にも10年」という考え方をJSAO会員全員が共有することかもしれない。時間がかかるからこそやり遂げる価値は高い。「継続は力なり」。本学会の発展を心から祈りたい。

本稿の著者には規定されたCOIはない。

■ 著者連絡先

高知大学医学部外科学講座外科1
(〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮)
E-mail. hanazaki@kochi-u.ac.jp